

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2014年8月

No. 64

～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)



2014年8月の報告と予定

- 1月～8月 南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など。
各地で図書研修会、移動図書館巡回、有機農業研修会実施
国内にて、英語の本などを収集、分類・再梱包作業
- 3月 TAAA より南アを訪問
- 5月 南ア大使館主催民主化20周年記念講演会に参加
- 7月 JICAにてTAAA活動報告会
- 8月 TAAAが本年度の外務大臣賞を受賞する
- 9月 401箱(英語の本、算数セット、サッカーボール)を南アに発送

目次	・南アフリカの生徒・コミュニティへの支援(平林薫) 2
	・アパルトヘイト後の20年を振り返る(牧野久美子) 4
	・外務大臣賞受賞の報告(野田千香子) 5
	・南ア民主化20周年記念祝賀講演会(鯨井幸一) 6
	・ご寄附のお願い・南アの活動アルバム 7
	・TAAA会計報告 8
	・ニコニコ子ども会が作業に! 10
	・活動日誌 11
	・寄付金や本などを下さった方々 12



ロゼッテンヴィル小に本を寄贈。学校図書室も充実してきている。

南アフリカの生徒・コミュニティへの支援

～JICA 草の根技術協力事業を中心に～ (7月13日の平林 薫氏講演より)

はじめに

6月1日開催の「コムレツツ・マラソン」(ピーターマリッツブルグ→ダーバン80km)に参加したTAAA現地スタッフの一人であるカムレラさん(図書館プロジェクト担当)が1万6千人中76位でゴールインした。優勝者もクワズール・ナタール州の若者だった。このようなイベントに地元の若者が参加できるようになって来ているのは喜ばしいことだと思う。



1. 草の根技術協力事業

1) 指導者(各対象校の菜園プロジェクト担当教員)研修

(1) 対象校40校(4グループ)のうちの2グループずつを対象に、ファシリテーターを有機農法指導者リチャード・ヘイグさんをお願いし、プロジェクト参加校の菜園を回り持ち研修開場として、技術啓発と学校間の交流・連携作りをめざして行われている。また、ヘイグさんが経営するエナレニ農場での研修会も開催。リチャードさんは、ファームの一体性(伝統的な羊や牛を飼い、伝統的な植物を育てる)を追求し、食物の生産・加工・流通に意識をもつことの重要性も説く。常に新しいソウ・ハウも試行しており、その成果をすべて指導教員たちにも教示してくれる。ソーラーで



水をくみ上げることも最近学んだことのひとつだ。インスパイヤーされた教員たちは、この研修の様子を携帯にとって、各自の学校に持ち帰って生徒たちにもみせているようだ。収穫物を使った料理もする。男性職員の積極的な参加を呼びかけている。この農場研修は、卒業生グループや生徒にも、20人位ずつの単位で行われている。ここで繋がったグループ間で苗のやりとりも行われている。

2) 学校での菜園活動

(1) 各学校には、委員会設置・活動の記録を要請しているが、それ以外の運営方法は、各校に任せている。全くの希望者だけがあつまっているところもあれば、農業科学という科目選択者全員を自動的に委員会メンバーとしているところもある。どちらの場合もうまくいくかどうかは、指導教員次第という要素が大きいようだ。担当教員の機転で、孤児たちをメンバーにし、自分たちの食糧確保を实践させているところもある。

(2) 退職者の年金取得までのつなぎ・若者雇用対策として CWP(地方自治体主催のコミュニティ労働プログラム)メンバーが学校の敷地内で農業省の支援により菜園活動を始めたことが、当初は有機農法による生徒の活動としての菜園プロジェクトとどう調整するかでやや混乱もあったが、現在は相互に学びあい、協力し合う関係が築かれつつある。地域の CWP 担当者が学校を訪問し、有機農法にも理解を示してくれている。農業省から化学肥料や殺虫剤をもらっていた CWP の中で有機農法に転換するところも出てきている。

(3) 地域的には、土壌・気候ともに食物栽培に適しており、特にトマトやピーマン、豆類がよく収穫できる。殺虫剤にはチリとガーリックを主成分としたオーガニックのものを使っている。肥料の牛糞と水の運搬は、TAAAのスタッフが運転する車で応援している。

(4) 小学校でじっくり取り組めた生徒がそのまま地域の中学・高校へ進んで活動を支援している。特にシニアプライマリー(5年生~7年生)の生徒が一番活動に適しているようだ。ズルー生活文化の伝統的な傾向(男性は畑仕事に従事しない)がある中で、男子が熱心にやっているのを見ると、学校での取組みの重要性を痛感する。菜園活動が活発になると、図書館活動への好ましい影響も見られる。ある学校では7年生が、技術習得と同時にスープキッチンのような形でランチ提供をめざしたいと言っている。

3) 若者グループの活動

(1) 4つの学校を拠点に若者グループを結成。それぞれのグループが、環境や状況に合った方法で活動を行っている。メンバーへの研修会開催、グループ間での交流や学び合いを行う。苗や収穫を地域住民や学校に販売している。

2. 図書館プロジェクト

- 1) 移動図書館車は今エンジンの修理に入っている。
- 2) 移動図書館への本の返却の際に生徒に読んだ本のストーリーを話させる。
- 3) 昨年度コンテナ図書室を寄贈した高校2校の図書活動が始まった。
- 4) ポケモンやドラえもんは、特に男子生徒に人気。
- 5) テクノロジーという科目があるのに、教材・教具があまりに不十分。
- 6) 活動が活発な学校が、リーディング・コンペで優勝した。
- 7) 学校によっては図書館車から本を借りた生徒にビニール袋を渡して本を保管させている。
- 8) 昨年度対象校でなかった学校で図書室の本の整理・分類を手伝った。
- 9) 昨年から配布対象に入れた専門学校に約60箱を寄贈。図書室の書棚にはまだ本がほとんど入っていない。
- 10) 司書教師に本を配布して読書を奨励。



3. サッカープロジェクト

- 1) サッカーボールは、対象40校に、今2巡目の配布を行っている。
- 2) マニュアルを活用して練習を行っている学校は地域でダントツに強くなってきている。



最後に

学校の状況は一校一校異なっており、どのプロジェクトを通していても、「その校長や教師、生徒、入った NGO の関係が作る学校」という印象を持つ。いまだに設備や資材が不足している中で、プロジェクトの活動が生徒たちに何かに関わる機会となって欲しいと願っている。

(記録・編集: 大友深雪)

アパルトヘイト後の 20 年を振り返る

7 月 13 日 牧野久美子氏講演より

はじめに

TAAA 設立二年後の 1994 年は、全人種参加総選挙によってアフリカ民族会議、国民党、インカタ自由党の「国民統合政府」が樹立されるというアパルトヘイト廃絶のシンボリックな年だった。そこから 20 年経ったが、アパルトヘイトからの脱却・変革はまだ途上にある。

1994 年以來 5 年ごとの選挙を経て、今年のアパルトヘイト後に生まれた「ボーン・フリー」世代が初めて投票。この間 ANC 政権は長期に続いているが、アフリカでは珍しくリーダーは、マンデラ、ムベキ(退陣後の暫定大統領としてモトランテ)、ズマと交代してきた。

80 年代に、政治、経済、スポーツ、文化の全分野において世界から孤立していた南アは、90 年代にはムベキ提唱のアフリカン・ルネッサンスが推し進められ、まずは近隣アフリカ諸国へ進出、そして国際社会へと復帰・グローバル経済へ統合され、2000 年代には、新興国としての地位を確立し、BRICS の中では決して上位を占めてはいないが、南部アフリカのリーダー的地位は確保している。

南アフリカの民主化とはなにか。

それは政治的だけでなく、経済・社会的なプロセスでもある。

南アが民主化した 1980 年代後半～1990 年代前半は、他のアフリカ諸国も次々と民主化を経験し、「民主化の雪崩」とも呼ばれた。しかし、「一党独裁から選挙による多党間競争への変革」を意味する他のアフリカ諸国の民主化と比べたとき、南アの場合は意味が違う。複数政党制の選挙は行われていたが多数派のアフリカ人が参加できていなかった南アの場合、政治的民主化とは、多数派意見を反映した政府の実現を意味し、また一人ひとりの人権の保障も民主化の重要な要素であった。この人権保障とはアパルトヘイト時代に否定されてきた多数派の人々の基本的人権の保障を意図するとともに、マイノリティーとなる白人の権利を守る面もあった。

1) 政治的民主化

(1) 地域的には多少の暴力も見られるが、クーデターで乗っ取ろうというような企ては起きず、概ね自由で公正な選挙で政権交代を実施してきた。新憲法、特にその人権憲章はすばらしいだけでなく実効をあげている。セクション 9 は、あらゆる人間の平等を謳い、セクション 27 の 2 項は健康福祉、食糧、水や社会保障を実現する責務を国が負っており、これを国がさぼれば憲法違反と、違憲裁判所で裁かれることを規定している。

(2) ANC 政権の長期化による問題

政権政党 ANC の一党優位状況には問題があるとされるが、少数政党に有利な比例代表制のもとでの公平・公正な選挙での得票であり、少なくとも消極的には支持されている。問題なのは、

- ① 有権者へのアカウントビリティ確保の課題
- ② 政府と与党の区別が曖昧、政治資金規制、公務員の副業規制の不在だと言えるだろう。

2) 経済的民主化

(1) 1994 年の ANC の選挙公約、RDP(復興開発計画)には、政治的民主化は、人々の生活向上の実感なしには実現しえないと書かれていた。政治的民主化と経済的民主化は切り離せない、経済的民主化なくして政治的民主化はありえない。経済

的民主化には人種格差の是正と、絶対的貧困の解消の両方を含む。

(2)人種格差の是正について。BEE(黒人の経済力強化政策)によって株主・経営者の黒人比率を高め、その後、より広い範囲の人々が受益するような「広範な」BEE 政策が導入され、「ブラックダイヤモンド」と呼ばれる黒人中間層はいまでは 400 万人に達するとも言われる。

(3)しかし、土地改革は進んでおらず、白人による土地所有率 87%(1999 年)のうちの 7.5%しか、非白人への移動が実現していない。この変更の遅れへの不満は募っている。

①シャープビルの虐殺やソウェット蜂起を彷彿とさせるマリカナ鉱山事件

②底辺労働者にアピールするのが上手なマレマ率いる「経済的自由戦士」が今年の選挙で予想以上の 25 議席を取った。ANC は新自由主義の DA に右から、マレマたちには左から突き上げられている。

(4)南アは、世界で最も不平等な国の一つであり、人種間格差に加えて人種間格差も近年では拡大している。絶対的貧困は社会手当の拡大により減少している。貧困世帯の収入にしめる社会手当の比率はきわめて高い。しかし社会手当は貧困問題の根本的解決ではなく、雇用拡大が必要。

(5)雇用増のためには教育が果たす役割が大きい。就学率は 1994 年の 70%台から、90%台にまで上がった。しかし高校修了試験までに半数がドロップアウトしている。教育の質が問われるわけだが、それは教員の力量の問題に加え、中央政府が理想的な教育目標だけ掲げて、方法論等は現場任せになっているため現場が混乱し対応しきれないという構造的な問題もある。貧困地域の補助金を多くして教育予算を傾斜配分するなどのアパルトヘイト下の教育格差の是正策は実施されているものの、分権化が、「校長や学校評議会や入り込んでいる NGO 等の動き次第」という格差を生み、学習権の平等化を達成できないでいるという事情もあるようだ。

最後にまとめとして

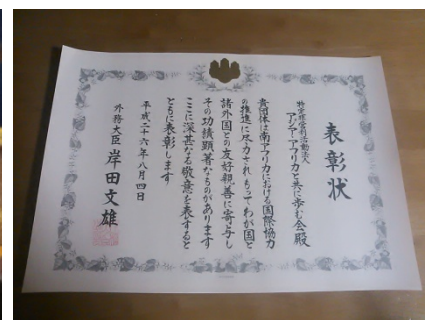
「アパルトヘイト廃絶後の南アの歩みにも日本が学ぶべきところがたくさんある」という久我代表の挨拶にもあったように、南ア社会はあらゆる差別に敏感で、あからさまな人種差別、障害者差別、男女差別、マイノリティー差別は許容されなくなっているという意味では、政治的な民主化は、ほぼ達成されたと言える。しかし「経済的脅威としての外国人」の排斥は深刻な問題だ。

経済的な民主化の遅れは、政治的民主化そのもののプロセスにおける白人政権や経済界との妥協(急速かつ根本的には変えないという合意)の必然的帰結だと言わざるを得ない。問われているのは頻発する労働者・住民のプロテストが求める「変革の加速化」と「経済成長による雇用創出」のバランスをどうとるかということなのだが、どちらにも財源が必要なため、簡単にはいかない。

(記録・編集:大友深雪)

外務大臣賞受賞のご報告

8月4日(月)午前中に外務省飯倉別館(港区麻布台)で平成26年外務大臣賞表彰式が行われ、「特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会」も表彰を受けました。久我さんと野田が出席し、外務大臣から直接、表彰状を受け取りました。



今後とも、微力ではありますが、現地の声を第一に息の長い支援を継続していきたいと思っています。これからも、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

TAAA 事務局長 野田千香子

南アフリカ共和国 民主化 20 周年記念祝賀講演会

鯨井 幸一

澄み渡る青空の下、5月17日(土)午後2時より、東京元麻布の南アフリカ共和国大使公邸に於いて、「南アフリカ共和国の民主主義 20 周年と、日本の人々との連帯の 50 年を記念して、南アフリカ・日本対話」が開催されました。



左より、久我、野田、ペコ大使、大友、鯨井

このイベントは、2014年に南アが民主化20周年を迎えるとともに、1964年5月に『南ア人種差別反対実行委員会 (JAAC)』が発足して、今年50年を迎えることを記念するために、在日南アフリカ共和国大使館が主催して開かれたものです。

第一部では、1900年代中頃より発生した、世界的な反アパルトヘイトのうねりの中で、日本においても各地で反アパルトヘイト運動が起りましたが、その運動を指導されてきた方々が講演されました。

第二部では、アパルトヘイト終焉後の南アフリカの混乱期から今日まで、南アフリカを支援し続けてきた(主に)NGOの方々が講演されました。

第一部のディスカッションは、津山直子さん(特定非営利活動法人アフリカ日本協議会(AJF)理事・関西大学客員教授)がコーディネーターを務め、楠原彰さん(國學院大學名誉教授・JACCメンバー)、荒井きぬ枝さん(「小宮山量平の編集室」代表)、城島徹さん(毎日新聞記者・東京本社編集委員)、ゴートン・サイラス・ムアングィさん(四国学院大学教授)、佐竹純子さん(ブール学院大学短期大学部教授)、トーマス・カンサさん(詩人・英会話講師)の6名が登壇しました。

第二部のディスカッションは、牧野久美子さん(日本貿易振興機構アジア経済研究所副主任研究員)がコーディネーターを務め、峯陽一さん(同志社大学大学院教授)、吉田昌夫さん(元日本アフリカ学会副会長・元アジア経済研究所地域研究部長・AJF前代表)、渡辺直子さん(日本国際ボランティアセンター(JVC)南アフリカ事業担当)、久我祐子さん(特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA)代表)、小山えり子さん(NGO ニバルレキレ代表)の5名が登壇しました。

第一部では、日本における反アパルトヘイト運動についての様々な困難や苦労の中で、南アフリカの人たちといかに連帯してきたか、講演者の皆さんがご自身の体験を踏まえイキイキとお話しされていました。トーマス・カンサさんは、お話の中で昨年12月5日に逝去されたネルソン・マンデラ氏のことに触れ「Madiba(マンデラ氏の愛称)が残したもので一番偉大なものは、他人を愛する心、つまり、ハグだ。今、この場でみなさんハグしましょう」と言って、参加者全員が隣にいる人とハグをし合うという一幕もありました。第一部終了後、コーディネーターの津山さんの提案で、楠原さんが音頭を取り“Amandla 三唱”も行いました。

第二部では、吉田さんが以前「ネルソン・マンデラ歓迎日本委員会事務局長」を務められていたこともあり、1990年のマンデラ氏訪日の際の苦労話、峯さんからは、ご自身も編著・翻訳に携わった日本で刊行された、南アフリカに関する文献のお話、渡辺さん、久我さん、小山さんからは、各自のNGOについてのお話を拝聴することができました。

当日は、公邸のイベントルームから溢れるほどの100人以上が参加され、西日本、特に関西で反アパルトヘイト運動や南アフリカ支援に携わっていた(いる)人が沢山参加されていたのが印象的でした。

イベントは、学術的なシンポジウム、学者が主催する勉強会、とも違う何か“同窓会”のような雰囲気を感じました。ともに、アパルトヘイト打倒のために闘ってきた者、今現在、南アフリカのために何かをしている人、つまり、南アフリカに強く心を寄せている人たちが一堂に会し、南アフリカについて思っていることをざっくばらんに語り合ったり、久々の再会に喜びあったりする、和やかな雰囲気の中にも、一体感に包まれたひと時でした。

このイベントの10日前の5月7日に南アフリカでは、第5回全人種参加総選挙が行われ、1994年の民主化以降一貫して与党として政権を担ってきたアフリカ民族会議(ANC)が、前回に比べ得票数を減らしたとはいえ、圧倒的多数で勝利し再び政権を担当することになりました。反アパルトヘイト運動を指導し、民主化を達成した立役者ともいえるANCが勝利したということは、南アフリカはこれからも『自由』と『民主主義』を国是とし、過去の過ちを繰り返すことは無い、という国民の意思表示の表れだと私は思います。

10年・20年後、また、このような自由や民主主義を祝うイベントが開催されるとしたら、また参加して、私たちは、南アフリカにいつまでも心を寄せ続けているんだ、という意思表示をしたいと思いました。

ご寄附のお願い

日頃 TAAA の活動を暖かく支えてくださり、ありがとうございます。皆さまのお陰で、1992 年から途絶えることなく、南アフリカ共和国への教育支援を行うことができました。教科書以外の本が一冊もない学校に、本を配り、小さな図書室を設置することで、数多くの子供たちの教育環境を大きく改善することができました。

今年度は、図書支援活動において、大きな助成金がないため、現地での活動は、苦慮しながら進めています。これからも、本のない学校に通う多くの子供たちに、読むチャンスを与えていきたいと思っています。現地での活動をスムーズに行うために、皆さま方からの暖かいご寄附をどうかよろしく願いいたします。

- ・郵便振替 00100-4-608515 口座名：アジア・アフリカと共に歩む会
 - ・三菱東京UFJ銀行 浦和支店 普通 0262762 特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会
- TAAA 代表 久我祐子

～南アの活動アルバム～



サイエンスの本に夢中の男子生徒



種から育てた苗を移植する生徒



読書コンテストで入賞したバンギビーズ小の生徒



トゥルベケ小では全校生徒が畑で活動



クワプザ小のトマトの収穫



ルトウリ高校のコンテナ図書室



休み時間にボールを使って遊ぶ生徒たち

2013 年度(平成 25 年度)活動計算書
(2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで)

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	148,000	
賛助会員受取会費	45,000	193,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	1,204,528	1,204,528
3 受取助成金等		
国際協力機構	8,096,560	
国際ボランティア貯金	5,994,000	
埼玉県国際交流基金	500,000	
ゆう貯財団	50,000	
(財)ひろしま祈りの石	100,000	14,740,560
4 その他収益		
受取利息	661	
雑収入	27,140	27,801
経常収益計 (A)		16,165,889
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	4,598,501	
臨時雇賃金	46,756	
法定福利費	0	
人件費計	4,645,257	
(2)その他経費		
プロジェクト物資購入費	6,510,097	
研修費	458,963	
制作費	13,564	
プロジェクト物資輸送運搬諸経費	412,990	
旅費交通費	554,943	
車両諸経費・燃料費	895,038	
車両修理代	184,460	
視察訪問費	1,132,249	
専門家派遣費	5,000	
施設使用料	3,200	
会議費	80,101	
通信・運搬費	152,572	
印刷・製本費	136,985	
消耗品費	62,676	

水道光熱費	9,007		
地代家賃	353,970		
支払手数料	125,726		
保険料	196,910		
雑費	32,344		
その他経費計	11,320,795		
事業費計		15,966,052	
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
会議費	39,599		
旅費交通費	16,640		
通信運搬費	73,210		
消耗品費	6,916		
水道光熱費	0		
地代家賃	0		
事務所設備・修繕費	306,091		
前年度助成金返還金	514,239		
雑費	40,234		
その他経費計	996,929		
管理費計		996,929	
経常費用計 (B)			16,962,981
当期経常増減額 (A - B)			▲ 797,092
III 経常外収益			
1 固定資産売却益		0	
経常外収益計 (C)			0
IV 経常外費用			
1 過年度損益修正損		0	
経常外費用計 (D)			0
①当期正味財産増減額 (A - B + C - D)			▲ 797,092
②前期繰越正味財産額			4,311,143
次期繰越正味財産額 (① + ②)			3,514,051

2014年 6月 9日

会計: 高野千恵美

会計監査: 米山周作

ニコニコ子ども会が作業に！

報告 野田千香子

2014年3月31日(月)春休みの真っ最中、穏やかな午後、TAAAに隣駅の「ニコニコ子ども会」(森さんがサッカーの指導をされてきたグループ)の小学生5人、中学生2人、お母さん3人、計10人が「こんにちは、お世話になります」と言って現れました。本や箱が積まれた異様な大きな部屋を目を丸くして見ていました。



森直之さん(子どもたちから「イケメン」と呼ばれている)が「さあ、ここにまるく輪になって座ってね。イケメンは南アフリカに行ってきました」と言って、パソコンを開いて南アの地図、気候、学校菜園、図書室、サッカーの様子などを画像をみてもらいながら、15分お話されました。「イケメンたちはこういう学校に本やボールを送っているんだよ。これからみんなで、箱に入れる作業をしてみよう!」「イケメンはボールの梱包の仕方を教えるから、半分の方は野田さんから本の梱包の仕方を聞いてね」と要領よく、グループ分けして、すぐ作業にかかりました。

子どもたちの顔には“そういうことなら、まかせておいて!”と書かれているようでした。低学年の妹さんはお母さんと一緒に、他の子どもは自力で箱を組み立て、レベル別の本を数えて、詰めていきます。「一杯になりました」というところで外箱にJUNIOR SECONDARY 小36冊と書いて、封をして、量りまで押し行って、「15kg」。出来上がり。「えら~い、できたね」次はボール組と交代。ボールに乗って空気抜きを頑張っている人もいます。ワールドカップの時、有名になった南アの細長いラップ状の楽器ブゼラを順に吹いてもらいました。イケメンよりも誰よりも上手に素晴らしい音を出した3年生くらいの男の子、見事でした。イケメンからチョコレートをもらって終了。すぐに一人のお母さんから、お礼状と写真をいただきました。皆にとっても私たちににとっても楽しい日でした。

以下はお母さん方からのおたよりです。

◎森さんのお話すごくよかったです。スライドでわかりやすく説明していただけて、Tもだいぶ理解できたようです。森さんとお会いするのがすごく久しぶりだったのですが、以前は元気な大学生のお兄さんという感じでしたが、落ち着いた話ぶりでなんだか大人になられたと思いました。さらに「イケメン」になられていましたね。

Tに以前からずっと森さんのお話を聞かせたいと思っていたので、夢が実現できて嬉しいです。Tも行ってもよかったですと言っていました。森さんがいらっしゃる時にTAAAにお手伝いに行こうかなと言っていました。今週金曜日より高校の寮生活が始まります。最後にいい経験ができました。ありがとうございました。

◎いい経験をさせていただきました！ありがとうございました。箱詰め作業が楽しかったです。私達の詰めた箱が秋以降南アフリカに届くと思うとワクワクしました。世界とつながれたような気がしました。

駅まで帰る途中森さんとお話していて、南アの子供たちは身体能力が抜群で石のうで宙返りしたりしている事や平らなところがどこにもない場所でサッカーしている事とか、森さんが南ア開催のワールドカップを見ていろいろ思うところがありTAAAに参加することになった事など分かりました。

このお話、子供達にももっともっと聞かせてやりたかったと思いました。野田さんのお話もっとお聞きしたかったです。



南アのお土産、ブゼラに挑戦。吹けた！



中央 イケメン(森直之さん)

◆ 主な活動 (2014年1月16日～2014年7月15日)

下線は南アにおける活動

1/17 JICA会議 久我祐子 平林薫 野田千香子
 1/19 作業と会議 北爪健一 平林 久我 野田
 高野千恵美 下谷房道 横山晃祐 木村志義
 1/22 ひろしま祈りの石へ2013年度第3四半期報告書提出 久我
 1/20～1/25 住所ラベル更新 西村裕子
 1/21～2/10 会報63号編集・校正 野田 西村
 2/18 南アフリカ大使館打ち合わせ 久我 平林
1/22 南アフリカへ出発 平林
1/24 スタッフミーティング 平林
1/25 URDO(現地教師グループ)メンバーと会議
1/27-31 学校巡回訪問指導 平林
2/3-7 学校巡回訪問指導 平林
2/10-11 学校巡回訪問指導 平林
2/12 菜園事業・卒業生グループ対象研修会 平林
2/13-14 学校巡回訪問指導 平林
 2/14～20 会報用の封筒・振込用紙の準備 高野
2/17-18 学校巡回訪問指導 平林
 2/18 南アフリカ大使館イベント準備ミーティング 久我
2/19 教師対象図書研修会指導 平林
2/20-21 学校巡回訪問指導 平林
2/24-28 学校巡回訪問指導 平林
3/3 学校巡回訪問指導 平林
3/4-5 教師対象農業研修会 平林
3/6-7 学校巡回訪問指導 平林
3/10、12 卒業生グループ育苗所設置 平林
3/13-14 学校巡回訪問指導 平林
 3/14 (株)コンセプト開店祝いへ 久我 野田
 3/16 本梱包作業 北爪 森直之 大友深雪 久我
 野田 浅見 西村 茂住衛 堀越亮輔
 3/17 ボランティア貯金と経理会議 久我 野田
3/17-20 学校巡回訪問指導 平林
3/21 卒業生グループミーティング 平林
3/22-28 TAAAメンバー現地視察訪問 平林
久我、大友、森、茂住
 3/30 TAAAメンバー南ア訪問より帰国
 3/31 ニコニコ子ども会が梱包作業に参加 森 野田
3/31-4/4 事業報告書作成および会計処理 平林
4/5 日本へ一時帰国 平林
 4/10 ミーティング 久我 平林
 4/13 平林と理事会議
 4/16 JICA 会議 前年度年次報告書提出 久我 平林
4/18 南アフリカへ出発 平林
 4/20 作業と報告会 茂住 久我 北爪 浅見
 野田 梶村佐喜江
4/21 事業報告書作成 平林

4/22 埼玉県国際交流協会 訪問 平成25年度助成
 事業完了報告書提出 久我 野田
4/22-23 スタッフミーティング 平林
4/24-25 学校巡回訪問指導 平林
4/28 事務処理・本の仕分け 平林
4/29 卒業生グループ育苗所設置 平林
4/30 卒業生グループ菜園訪問指導 平林
5/1 事務処理・本の仕分け 平林
5/2 卒業生グループ育苗所設置 平林
5/5 卒業生グループとミーティング 平林
5/6 卒業生グループ菜園訪問指導 平林
5/8 学校巡回訪問指導 平林
5/9、12 卒業生グループ菜園フェンス設置 平林
 5/10 ASIJに本引取り 浅見
5/13-14 教師対象農業研修会(エナレニ農場)
5/15-16 学校巡回訪問指導 平林
 5/17 南ア大使館民主化20周年祝賀講演会 久我
 と牧野がパネリスト。司会、津山。大友、野田、鯨井
 5/18 作業 北爪 野田 浅見 鯨井 西村 下谷
 森 高野 横山 上林潤子
 5/18 2014年度第一回理事会
5/19-23 学校巡回訪問指導 平林
5/26-30 学校巡回訪問指導 平林
6/1 コムレッズマラソン・カムレラ応援 平林
 6/2 埼玉県国際交流協会 訪問 2014年度助成事
 業申請書提出 久我 野田
6/2-6 学校巡回訪問指導 平林
 6/7～8 5/17南ア大使館祝賀会報告作成 鯨井
6/9-13 学校巡回訪問指導 平林
 6/9 TAAA 理事会
 6/12 聖心インターナショナルに本引取り 浅見
 6/13 本の種分け作業 大友 久我 野田
 6/15 作業 鯨井 野田 西村 大友 丸岡 浅見
 下谷 浦和学院より4人 佐々木百合 宮内莉加
 石井美里 森田ひかり
 6/15 TAAA 総会
6/16 事務処理と本の仕分け 平林
6/17-19 学校巡回訪問指導 平林
6/20 パスライセンス更新 平林
6/23-25 学校巡回訪問指導 平林
6/26 日本へ一時帰国 平林
 7/1 ミーティング 平林 久我
 7/3 浦和学院高校より橋本先生たちが来訪 野田
 7/4 SVAを訪問 丸岡 浅見 平林 久我
 7/7～11 7/13TAAA 報告会資料作成 鯨井
 7/13 TAAA 報告会 講師 牧野久美子 平林
 7/14 JICAにて会議 第1四半期報告書提出
 平林 久我